

## Pixia による似顔絵の描き方 (その1)

以下の説明での約束事：

メインメニューからサブメニューへとマウスで移動する場合は “ > ” を使用する。

例) メモ帳を開く場合：スタート>プログラム>アクセサリ>メモ帳

“ クリック ” と表示している場合は、マウスの左ボタンをクリックする。

“ 右クリック ” とある場合のみ、マウスの右ボタンをクリックする。

**注：作業を途中で止めるときには、作成しているファイルを保存しますが、そのときは必ずファイルの種類を “ 標準[\*].pxa ] ” とすること。**

**ファイル>名前を付けて保存>ファイルの種類で“ 標準[\*].pxa ] ”を選ぶ。**

### 1. 作業前の下準備その1

ファイル>環境設定>基本設定タブ “ 数値表示 ” を “ 0~255 ” にセット。

同じく、レイヤタブ “ カレントレイヤのサムネイルを描画しない ” のチェックを外す。

“ OK ” をクリックして画面を閉じる。

### 2. 作業前の下準備その2

表示>補助設定、をクリックすると “ 補助設定 ” 画面が表示する。

この画面の機能は閉じると無効になってしまうため、常に表示させておく。

### 3. デジカメの写真を取り込む

デジカメの写真をパソコンに取り込み (この作業は各自お願いします) Pixia で開く。

ファイル>開く、“ ファイルの場所 ” と “ ファイル名 ” を指示して “ 開く ” をクリック。

“ ファイルの種類 ” は、“ すべての画像ファイル ” としておく。

または、“ ファイルの場所 ” にたくさんの画像ファイルがある場合は、“ ファイルを開く ” 画面で、“ 一覧 ” をクリックし、表示された画像からひとつを選び “ OK ” をクリック。

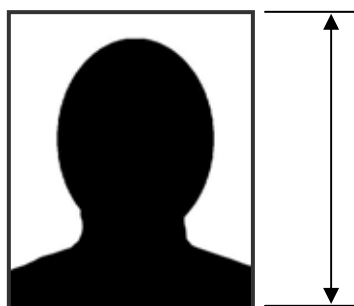
### 4. 開いた画像ファイルより顔の部分を取り取る

・ ツールバー>[領域] – 長方形ボタン、をクリック：切り抜く顔の部分を矩形で囲む

・ 編集>コピー、をクリック：矩形部分がクリップボードにコピーされる

・ ファイル>クリップボードから開く、をクリック：新しい画像ファイルが作成される

切り取る顔の部分はある程度大きい方が似顔絵を作りやすいので、小さな顔写真とならないように注意する。証明写真のように切り抜き、切り抜いたあとの高さが 500 ピクセル程度となるように。



500 ピクセル前後とすると作業がしやすいが  
300~500 であればよい。小さいと作業がしにくいので、思っているより大きめにする。

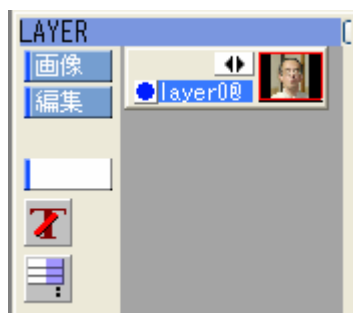
500 ピクセルより大きい場合は、画像>大きさを変えて複製、をクリックし

“ 大きさを変えて複製 ” 画面で “ 変更後の高さ ” を 300~500 の数値を入力し、“ OK ” をクリック。

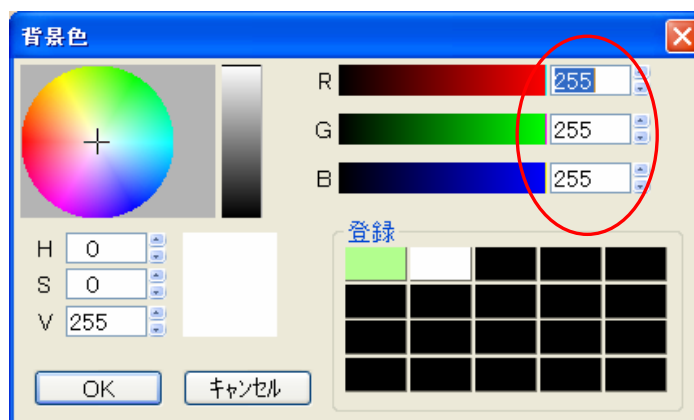
## 5. レイヤの追加

切り抜いた画像を使って似顔絵を作っていきます。

切り抜いた画像のレイヤは左下図のように、“layer00”の1枚だけになっています。



図：レイヤパネル



図：背景色画面

まず、レイヤパネル（左上図）の をクリックします。すると、

“背景色”画面（右上の図）が表示しますので、右上の R・G・Bの値（赤丸の中）をそれぞれ“255”として、“OK”をクリックする。

既になっていれば、確認するだけで“OK”をクリックする。

次に、レイヤパネルで、 > 追加で“レイヤ追加”画面を表示させ、“フルサイズ”を確認してから、“OK”をクリックする。新規レイヤが追加されると、レイヤパネルは下のようになる。



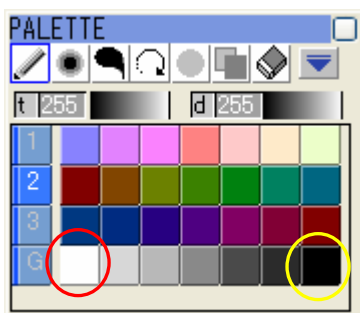
新しいレイヤ（LAYER1）が追加され、レイヤが2つになった。

注：赤枠で囲まれているレイヤが編集作業を行うレイヤ。自分がどのレイヤに対して練習作業を行っているか、この赤枠を常に意識すること。でないと、違うレイヤに色を塗ってしまうことになる。

図：レイヤが追加された

#### 6. レイヤを使う前の前処理

新しく追加したレイヤは透明なので、全体を白く塗ってから使用する。



まずパレットパネルで白を選ぶ（左図参照）。

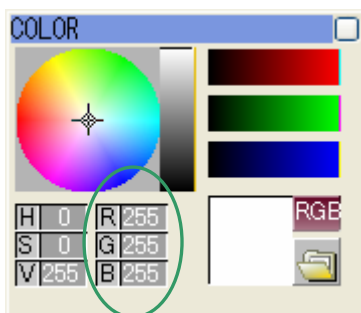
（注：以下“Pパネル”と略）

それにはPパネルで、2番をクリックしてGの左端の赤丸部分をクリック。白を選ぶときは必ずここをクリック。

すると、カラーパネルのR・G・B値が全て“255”になる。

ちなみに黒を選ぶときは、Gの右端の黄丸部分を選ぶこと。

図：Pパネル




カラーパネルのR・G・B値が全て“255”になった。  
(緑丸部分)

白 = R・G・B値が全て“255”

黒 = R・G・B値が全て“0”

注：上の数値は良く使うので、覚えておくと良い。

図：カラーパネル

次に“塗りつぶし”ツール  をクリックすると“LAYER1”が白く塗られるが、これは写真の上に白い紙が乗っている状態であるため写真が見えない。そこで、次の作業を行う。

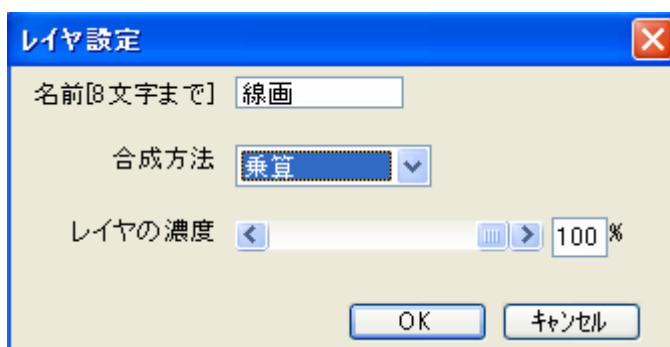


図：LAYER1（左図）

レイヤパネルの“LAYER1”という赤丸部分を  
クリックして“レイヤ設定”画面（下図）を開く。

図：レイヤ設定画面（右図）

レイヤ設定画面で、  
“名前”に“線画”と入力、  
“合成方法”を“乗算”に変更して  
“OK”をクリック。



また、同様に“layer0”の部分をクリックして、名前を“写真”と入力する。  
ここまでの作業で、レイヤパネルは以下ようになる。



図：レイヤ作業終了

次は、写真をベースに線を描く作業です。

7. 線を描くための前準備

- ・ “ Pパネル ” で黒を選ぶ。すると、カラーパネルのRGB値が全て “ 0 ” になるはず。
- ・ “ PEN ” パネル ( 下図 ) の赤丸部分をクリックすると、メニューが出るので、“ 編集 ” をクリックする。すると、“ ブラシサイズリストの編集 ” 画面が表示する。

赤丸部分をクリック  
メニューが出る  
編集をクリック  
すると

“ ブラシサイズリストの編集 ” 画面で、“ 追加 ” ボタンをクリックすると、“ ペン先サイズ ” 画面が表示する。

上図の “ ブラシサイズリストの編集 ” 画面に無いサイズを “ ペン先サイズ ” 画面で、追加しておく。必要なサイズは、1×1、3×3、5×5、10×10、20×20、40×40 の6種類だが、適宜やりやすいサイズを後から追加すれば良い。


8. 線を描く


いよいよ写真を元にして線を描くが、そのときの手順は以下の通り。

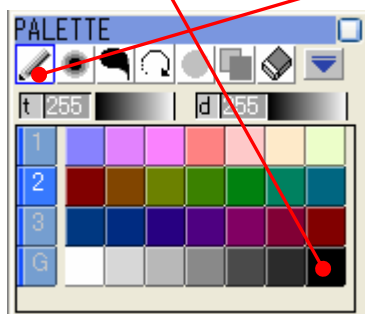
- 1) 最初に “ LAYER ” パネルの “ 画像 ” レイヤ ( 左下図 の部分 ) をクリックし、“ レイヤ設定 ” 画面 ( 右下図 ) を表示させ、“ レイヤの濃度 ” を “ 50% ” ( 右下赤丸部分 ) に設定。

この設定を変更することで、写真の濃度を変化することができる。輪郭線を描くときに、例えば髪の毛の部分など写真の色と区別が付きにくい部分では、この設定の数値を小さめにし、また写真本来の濃度が薄くて見にくい場合は、この値を大きめの数値に設定する。

以下、2)～5)は線を描く場合の手順：



- 2) ツールバーのをクリックする(は使用しないので、間違わないこと)
- 3) “PEN” パネルでペン先サイズをとりあえず“3×3”にセット。

- 4) “Pパネル”で黒を選び、色アイコンをクリックする。





- 5) 写真の輪郭に沿って、線を描く。最初はなかなかうまくいかないと思うが、失敗しても気にせずどんどん描く。ある程度描いたら、失敗した部分の修正作業を行う。

以下の6)～8)は線の修正手順：

- 6) “PEN” パネルでペン先サイズを“10×10”に変更。  
実際に作業を行い、やりやすいペン先サイズに適宜変更のこと。
- 7) “Pパネル”で白を選ぶ。この時も、色アイコンが選ばれていることを確認。  
たとえ修正でも、ケシゴムアイコンは使わないこと。  
ケシゴムを使うと、下地に塗った白も消して透明になってしまうので。
- 8) これで、修正する箇所(はみ出して描いた部分)を消す(正確に言うなら白く塗る)。

あとは、ひたすら2)～5)と6)～8)の手順を繰り返して作業を続ける。

補足1) 線の修正作業の場合に、ツールバーの“元に戻す”を使っても良いが、直前に行った一回の作業が全てキャンセルされるので、長い線を一度に描いたような場合その全てがキャンセルされてしまう。そこで、この“元に戻す”を使って作業を行う場合は、一度に長い線を描かないようにすると使いやすい。

補足2) 写真の細かい部分がうまく描けないときには、画像を拡大して線を描くと良いのだが、実際に拡大して作業をしてみると、同じペン先サイズでも線が太くなってしまいうようだ。使用しているパソコンによっても違うと思うので、画像を拡大したときに線が太くなるようなら、使用するペン先サイズを適宜変更し、線の太さをなるべく同じにする。画像の拡大は、メニューの表示>拡大率で、適当な拡大率を指定するか、または Pixia の画面の左下にある“拡大率”ボタンをクリックして表示される数値をクリックする。指定する拡大率は、最大でも500%を超えない方がよい。

とりあえず、“似顔絵の描き方1”はここで終了  
面倒だから、似顔絵の描き方2は無いかもしれない(^\_^)

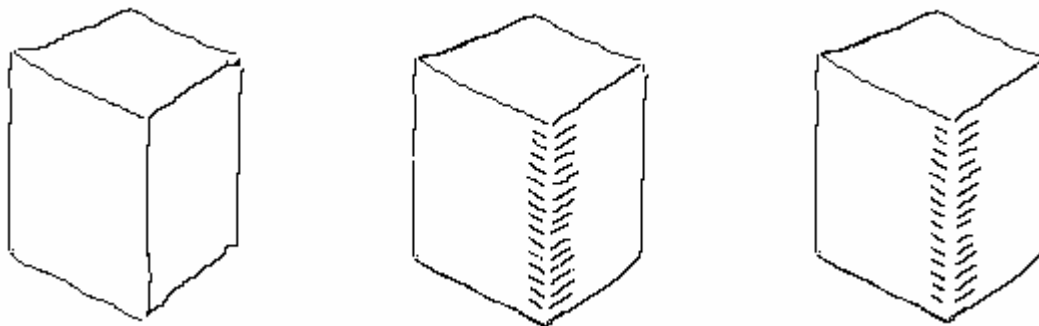
次のページからちょっとした線の描き方のコツを紹介します。

そんな大層な物では無いですが、線を描く際の参考になればと思います。

釈迦に説法とは思いますが・・・  
ちょっとした線の描き方のコツ

線の表し方：

線を描くときに、棒線を引いて表すのが直接的で簡単ですが、それでは、ちょっと強烈なインパクトがあるので、もっと柔らかい感じで表したいときには、あえて棒線部分には何も描かずに、周りを描いて線を表します。



上は単純な箱を描いた図です。左上は中心の縦棒を直接描いて表現していますが、真ん中と右上の図は、その直線部分をあえて描かずに、周りを描くことで棒線を表現しています。

真ん中と右上の二つを見比べると分かりますが、何も描かない線の部分の間隔を広げることで、丸みを帯びた感じに見せています。左上の図では鋭角な感じの表現となります。

鼻の場合：

上の説明にもあるとおり、全ての輪郭を描くとインパクトが強すぎることとなりますので、線をなるべく描かないで線表現するようにした方が良いでしょう。

鼻の場合も同じで、鼻の形を全て描くと、そこに鼻が**在る**という存在感が強くなりますので、左下ののように小鼻の輪郭だけを描くという方法でも良いでしょう。但し、この場合気を付けないと団子っ鼻のように見えてしまうかもしれません。



真ん中の図は鼻の輪郭を全て描いています。右上の図は、右側の輪郭だけを柔らかい表現としています。メガネを掛けている図であれば左上の形でも十分鼻と認識できるので、それ以上の線は必要ないと思います。(下図参照)。



眉毛の場合：

眉毛の場合も同様に、輪郭を描くという方法と、輪郭を描かずに眉毛の毛の流れ方向だけを描くことでまた違った印象となります。



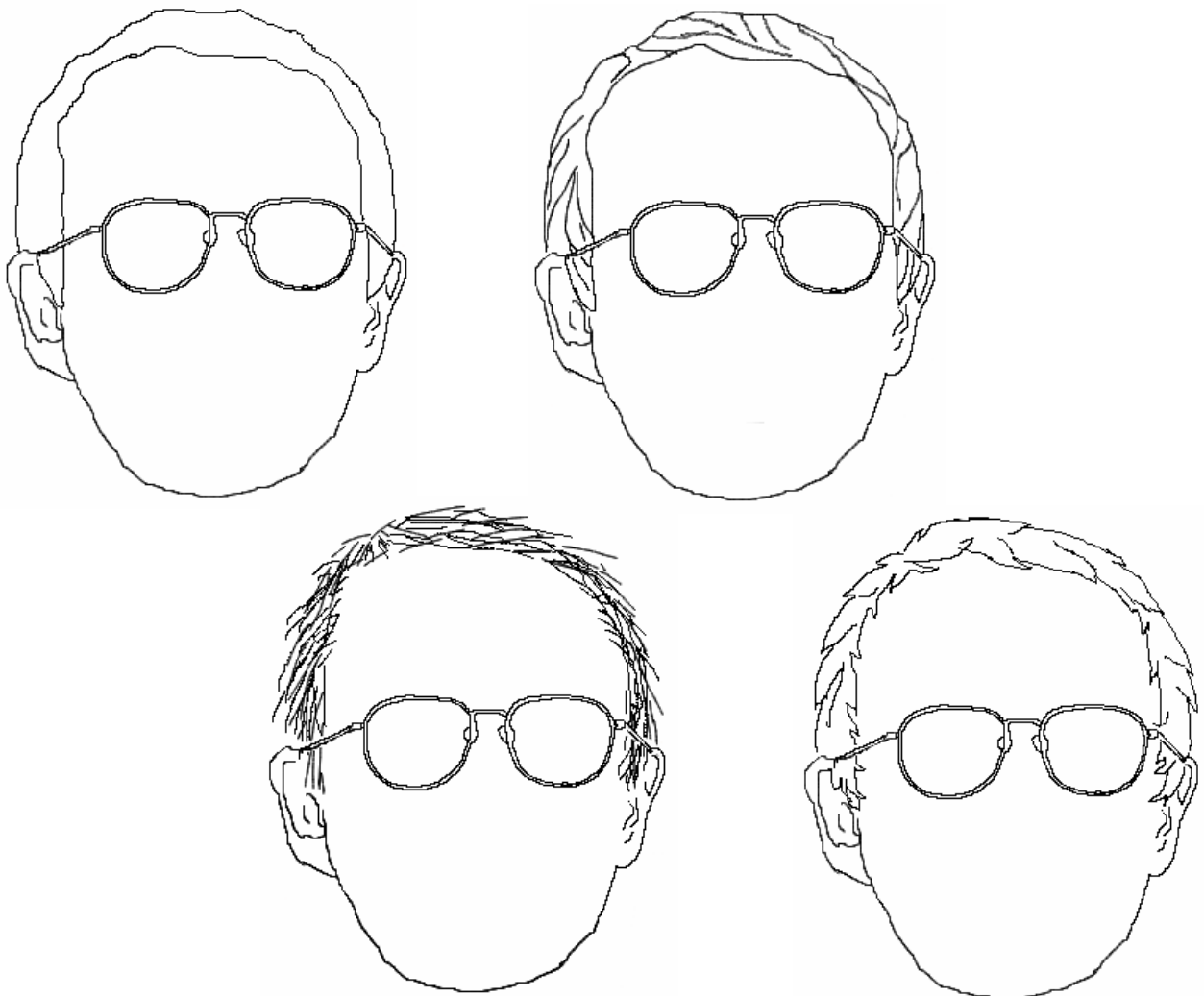
目の場合：

目は、輪郭を描いて黒目の所を黒く塗りつぶしますが、それだけでは死んだ魚の目のようになってしまいますので、必ず黒目の中心を白で塗ります。この作業だけは必ず画像を拡大して、ペン先サイズを“1×1”で行います。右下の図のように黒目の中をアニメのように表現しても面白いかもしれません。



髪の毛の場合：

髪の毛を単に輪郭だけで表現すると、カツラを被っているようになることもありますので注意が必要です。また、線だけで表現すると、後からべた塗りをする時に領域が閉じていませんので、塗りの作業に工夫が必要です。アニメのような表現も良いですが、やりすぎると印象が悪いのでほどほどに。何が良くて何が悪いということはありませんので、髪の毛だけを別のレイヤにして取り替えて見ると良いかもしれません。



以上